平成２４年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮西高等学校）

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育成して、自己実現を図る。

重点目標	1 生徒が学力の向上と定着を実感できる学習指導の充実 2 心身ともに健康でけじめある生活を送れる生徒の育成 3 生徒自ら進路を選択しその実現に向けて努力する姿勢の確立 4 開かれた学校づくりの推進(情報発信の充実と活用)

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○生徒の学習意欲と学習習慣を向上させるため、学習環境の整備、授業の改善、授業時間の確保に努める。また課題学習の充実を図り、予習復習の習慣を身に付けさせるとともに家庭学習の定着を図る必要がある。 ○新教育課程への完全移行に備え、充実した学習指導計画の作成に努める。	学力の向上を目指し、授業改善や生徒の意識改革に努めるための学習指導の取組	○授業評価や授業研究を通して授業の工夫や改善を行う。 ○授業時間の確保、チャイム始業。 ○授業の活性化、内容の充実。 ○生徒の意識を高め、興味関心を持ち積極的に授業に取り組ませる。 ○補習等を通して個別指導の充実を図る。 ○週末課題の提出と、その確認テストを実施することによって、家庭学習の習慣化を目指す。 ○校内の整理整頓・落ち着いた学習環境づくり。 ○教科主任会を組織化し、新教育課程に対応した指導計画の共有化を図る。	○授業に積極的に取り組む生徒は増加したか。 ○校内試験、校外模試の成績優良者は増加したか。 ○生徒のニーズに合わせた補習講座が開設されているか。 ○家庭学習の定着は図れたか。 ○校内美化が保たれているか。 ○新教育課程の運用に向けた準備がととのったか。				
2	○日々の学校生活や学校行事を通して自分を見つめ、他者を知る機会とする。そして人を思い遣る気持ちや他を尊重する態度を身に付けさせる。 ○明るく元気な生徒が多い反面、ややだらしない部分があり、その雰囲気が能力の伸長を妨げている感がある。けじめのある生活を送れるよう指導が必要である。 ○登下校時の交通安全、マナー指導や事故防止に努める。	豊かな人間性の育成と基本的生活習慣の確立を目指す生徒指導の取組	○基本的生活習慣の確立。 ・時間や規則を守らせる。 ・服装・頭髪指導、遅刻指導の充実。 ・登下校時のマナーアップ、点検。 ・三橋（３）交差点指導等の充実。 ○豊かな人間関係の育成。 ・学校行事への積極的な参加。 ・部活動の活性化。 ・国際教育の推進。 ・社会常識を育む講話の実施 ○心身ともに健康な生徒育成。 ・教育相談(スクールカウンセラーによる)の充実。 ・個別指導の充実、面談等の実施。 ・家庭、関係機関等との連携を図る。 ○特別支援教育の推進。	○服装、頭髪指導の効果は上がったか。 ○休み時間と授業の区別、部活動と家庭学習の両立はできているか。 ○遅刻数は減少したか。 ○交通安全、マナーの意識は向上したか ○部活動や学校行事の活性化は図れたか。 ○講話・講演を計画的に実施できたか。 ○いじめや不登校などの情報を共有し、指導に活かせたか。 ○国際教育を推進することができたか。				
3	○入学時より多くの生徒が進学を目指し、計画的に取り組んでいる。しかし一部に具体的に取りかかることが遅れ、実力を発揮できないままの生徒がいる。そのため早い段階からのきめ細かい進路指導を繰り返し行う必要がある。	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の取組	○進路指導に伴う個人面談。 ○ガイダンス機能の充実。 ○卒業生からの進路アドバイス。 ○進路の手引きや各種進路資料を整備し、進路情報の提供を図る。 ○職員の大学・短大説明会への参加。 ○実力テストの実施を通して進路指導の充実。 ○土曜進学セミナーを通しての進学指導。 ○生徒の大学・短大見学の推進。 ○新入生対象、学習法ガイダンスを開催。	○面談等を通し生徒への進路意識を図れたか。 ○進路情報の提供が適切に行われているか。 ○学年と進路指導部との連携が十分図れたか。 ○土曜進学セミナーへの参加で生徒の受験意識が高まったか。 ○生徒の進路希望に添った補習講座が平日行われているか。 ○進路希望を実現させた生徒は増加したか。				
4	○50周年記念事業では西高の伝統と発展を発信できた。ＰＴＡ、地域等の連携を密にする取組、ＨＰの更新やメール送信による連絡など順調に進歩している。さらに今年度も情報通信機器を用いた学校からの情報提供や収集システムの充実に熱心に努める。	開かれた学校づくりの推進、情報の発信の充実と活用	○公開授業の推進、充実（保護者、中学校との連携を密にする） ○ＰＴＡ活動の充実。支援態勢づくりを図る。 ○ＨＰ等各種方法による中学校向け情報の提供。 ○ＨＰの更新。 ○保護者へのメール情報の提供。 （メール連絡網の活用と加入率のアップ）	○保護者への情報提供の充実は図れたか。 ○中学生、その保護者の学校説明会、学校見学会への参加数は増加したか。 ○保護者が参加可能な学校行事への保護者の参加数は増加したか。 ○保護者や地域からの要望を活かす指導は行われたか。				